

令和2年第7回定例教育委員会会議録

1. 開催日時 令和2年7月22日(水)
午後1時30分～午後4時40分
2. 開催場所 KIホール 1階会議室
3. 出席した委員 教 育 長 新 子 寿 一
教育長職務代理 山 崎 裕 行
委 員 田 中 保 和
委 員 近 藤 温 子
委 員 西 村 弥 生 子
4. 出席した職員 教 育 部 長 福 島 潔 教 育 監 岡 本 泰 典
次長兼教育総務課長 寺 川 款 次長兼スポーツ振興課長 篠 宮 裕 之
指 導 課 長 石 田 智 指 導 主 事 浅 田 千 佐 子
指 導 主 事 川 口 裕 之 指 導 主 事 湯 浅 博 文
主 査 菰 池 孝 彰
5. 議事案件
議案第34号 令和3年度柏原市立中学校使用教科用図書の採択について

議案第35号 令和3年度柏原市立小学校使用教科用図書の採択について

議案第36号 柏原市教育委員会表彰審査委員会委員の委嘱・任命について

議案第37号 柏原市立堅下北スポーツ広場条例施行規則の一部改正について
6. 報告事項
7. 会議録の承認及び会議の要旨

新子教育長： 早速ですが、令和2年第7回定例教育委員会会議を開会いたします。本日の会議録署名委員は、山崎委員でございます。よろしく申し上げます。次に、事前に配付をさせていただいておりました会議録につきまして、何かご意見等ございますでしょうか。

委員全員： なし。

新子教育長： ないようでございますので、会議録は承認することにいたします。それでは、

早速議事案件に入ってまいります。本日の議案は4件ございます。本日の議案であります教科用図書の採択については、例年どおり、かなり時間を要しますので、委員及び関係課のみで進めてまいりたいと思います。時間をかけて一つ一つ選定をしてまいりますので、本日で終了しない場合は、別の日程で、臨時の教育委員会会議を開くこともございますが、委員の皆さま、よろしいでしょうか。

委員全員： はい。

新子教育長： ありがとうございます。それではさっそく審議のほうに入ってまいります。まず、議案第35号「令和3年度柏原市立小学校使用教科用図書の採択について」につきましてより審議します。指導課長より説明をお願いいたします。

石田課長： はい。失礼いたします。まず、本日の資料の確認をさせていただきます。本日の資料ですが、「次第」「各教科ごとのメモ用紙」、続いて「令和3年度中学校教科用図書一覧」、続いて「令和2年度使用中学校教科用図書一覧」、次に「令和2年度使用小学校教科用図書一覧」、そして最後に「資料：令和3年度使用教科書の採択事務処理について」の6点をクリップ止めにしております。また、別冊としまして、「令和3年度使用柏原市立中学校教科用図書の選定について（答申）の写し」を教育委員の皆さまには一緒につけさせていただいております。中学校教科用図書については、後程ご審議いただきます。小学校教科用図書の採択につきましては、資料にございます、令和2年3月付け文部科学省通知「令和3年度使用教科書の採択事務処理について」をご覧ください。その中の、1採択に当たっての留意事項について「(1)小学校用教科用図書の採択について」の中で、次のように述べられています。「令和2年度においては、無償措置法第14条の規定に基づき、無償措置法施行規則第6条各号に掲げる場合を除いて、令和元年度と同一の教科書を採択しなければならないこと」従いまして、本市におきましては、令和元年度採択における調査研究内容及び学校と子どもたちの実態を鑑み、クリップ止めの資料にもあります「令和2年度使用小学校教科用図書一覧」のとおり、現在使用の教科書をそのまま使用することが望ましいと考えます。ご審議をお願いいたします。

新子教育長： はい。今、指導課長の方から報告がございました。いかがでしょうか。

委員全員： 異議なし。

新子教育長： ありがとうございます。それでは「議案第35号令和3年度柏原市立小学校使用教科用図書の採択について」は、原案通り承認することといたします。続いて、「議案第34号 令和3年度柏原市立中学校使用教科用図書の採択について」であります。去る5月19日に教育委員会から、「柏原市立小学校・中学校教科用図書選定委員」の委嘱を行いまして、委員の皆様に選定について諮問させていただいたことは、皆さんもご承知のとおりでございます。本日その答申をいただくことになっておりますので、まずはその答申を教育監からお願いをいたします。

岡本教育監： はい。それでは、諮問いただきました件について答申をいたします。「令和2年5月19日付け柏教委第172号で諮問のございました『令和3年度使用柏原市立中学校教科用図書の選定について』答申をいたします」答申の本文を教育長にお渡ししたいと思います。よろしく申し上げます。

新子教育長： ご苦勞様でございました。それでは、答申の内容について概要の説明をお願いいたします。

岡本教育監： 引き続き、それでは私のほうから説明をさせていただきます。本日お渡ししている資料に、答申の写しをお付けいたしております。その2枚目以降が答申の内容でございます。この内容につきましては、選定委員会における審議により作成しております。先ほど教育長よりご説明がありましたとおり、5月19日に、まず選定委員会を立ち上げました。専門的で適正な調査を行うため、各教科につき3名の調査員をおいて、調査・研究を行い、その結果を選定委員会に報告いただきました。また、柏原市の教育研究会及び各中学校からの意見も報告いただき、選定委員会の資料といたしました。併せまして6月3日から7月1日にかけて教科書の法定展示と法定外展示を行いましたところ、12名の閲覧者がございました。その内9名の方からご意見を頂戴いたしましたので、それにつきましても選定委員会の参考資料とさせていただきます。そして7月7日に開催されました第2回選定委員会では、事務局による説明の後、委員全員で全ての教科用図書について審議を行いました。教育委員の皆様におかれましては、ご多忙の中、事前に全発行者の教科書、教科書会社作成の教科書編修趣意書、大阪府教科用図書選定審議会の資料、柏原市教科用図書調査員からの報告書及び各教科研究部、各校からの意見書に目をとおしていただいていると存じておりますが、本日は、選定委員会での意見も含めた事務局の説明をお聞きいただいた後、採択に関して審議を行っていただきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。以上でございます。

新子教育長： その他、指導課長より補足があればお願いいたします。

石田課長： はい。失礼いたします。それでは少し補足させていただきます。これからのご審議の資料といたしましては、ホッチキス止めの「令和3年度柏原市立中学校使用教科用図書の選定について(答申)写し」と、「教科書見本」5セット、「調査員からの報告書と、各学校、柏原市教育研究会からの意見書、教科書センターで閲覧された方の意見書を綴ったファイル」をご用意しておりますので、必要に応じてご覧ください。後ほど、様式「教育委員会会議 教科書センターご意見」に押印或いはサインをお願いいたします。それではこれより事務局から選定委員会でのご意見等を含めて教科ごとに各者の説明をさせていただきます、そのあとご審議いただきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

新子教育長： 早速でございますが、まず地理。浅田総括、よろしくお願い申し上げます。

浅田指導主事： 続きまして社会(地理的分野)について説明申し上げます。地理的分野は4者です。まず、目標・内容の取扱いについてです。帝国書院について、調査員からは、「環境・防災などの題材が充実しており、SDGsの意義への理解ができるように工夫されている」という報告がありました。東京書籍について、調査員からは、「教科書全体を『環境・エネルギー』『人権・平和』『伝統・文化』『防災・安全』『情報・技術』の5つのテーマで統一し、現代的な諸課題を意識しながら学習を進めている」「持続可能な開発目標(SDGs)を取り上げ、課題を解決しようとする態度を養えるように工夫している」という報告がありました。次に、人権の取扱いについてです。帝国書院について、調査員からは、ユニバーサルデザインフォントを使用しており、誰でも読みやすいように工夫されて

いるという報告がありました。また、世界地理の範囲では、各州の民族や生活等についての記載が充実しており、異文化理解につながるとの報告がありました。日本文教出版253ページをご覧ください。調査員からは、「日本の先住民族であるアイヌ民族などを取り上げ、多方面にわたり、人権問題を取り上げている」と報告がありました。次に、教育出版192ページをご覧ください。調査員からは、「広島に投下された原爆についての記述があり、その後の復興の変容を、地図を用いて比べることができるようになっている。これは平和学習の一助になると思われる」との報告がありました。次に、内容の程度についてです。大阪府の選定資料では、4者とも「生徒の発達段階を考慮した記述内容や分量になっている。」と書かれてあります。教育出版24ページをご覧ください。調査員からは「日本の領土問題については、それを理解するだけでなく、他国を尊重し、解決のために必要な姿勢についても記載されている。」という報告がありました。次に、日本文教出版204ページをご覧ください。学校からは、「大阪万博が開催されることについても記述されており、地元大阪への関心が湧くことで、学習意欲の向上につながっている。」という意見がありました。次に組織・配列についてです。各者適切に取扱われています。各者、見開き2ページで1時間の学習内容を構成し、学習課題、到達目標がわかるよう明示されています。東京書籍について、調査員からは、「巻末に、用語解説のページが設けられており、また用語解説が充実しているので、気になる言葉の確認がしやすくなっている。写真や図が大きく載せられており、見やすいため、細かい部分まで読み取りやすく工夫されている」との報告がありました。次に、創意工夫についてです。4者とも、SDGsについて取り上げており、それに関連付けて学習をすすめるよう工夫されています。帝国書院、日本文教出版、東京書籍について、大阪府の選定資料には、「『世界の諸地域』及び『日本の諸地域』の学習のまとめでは、調べ学習や対話的な学習に関わって資料が整理され、考察・判断したことを、根拠や立場をもとに論理的に説明するための課題やツールが示されるなど工夫されている」と書かれています。発展的な学習・補足的な学習についてですが、各者、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができるように、QRコードが用意されています。東京書籍では、学校からは、「『チェック』、『トライ』など、段階を踏んだステップが表記されており、1単位時間での学習課題が示されている。『探求課題』をスムーズに解決するための問いである『探求のステップ』も設けている」という意見がありました。日本文教出版104ページをご覧ください。調査員からは、「世界や日本のさまざまな地理的事象をより身近にとらえたり、世界的な技能を身につけたりすることができるページやコーナーを設け、学習内容の理解を深められるように工夫している。また、218ページの振り返りのページでは、アクティビティコーナーを設け、対話的な活動やシンキングツールを用いる主体的な学びができる工夫がなされている」との報告がありました。小中一貫教育の観点については、各者小学校の内容を復習する記載があります。東京書籍54ページをご覧ください。調査員からは、「小学校での学習から中学校での学習に向けて、スムーズにつながるように工夫されている」との報告がありました。また、日本文教出版43ページをご覧ください。「章の導入で、その章と関連の深い小学校の学習内容を示している」との報告がありました。最後に、選定委員会での審議について報告いたします。東京書籍は調査

報告では最も肯定的な意見が多く、情報をたくさん載せた上で、考えさせるように配置されている。また、行間や書体が見やすく、バランスが良いという意見がありました。日本文教出版は大阪の災害、古墳、万博のことが触れられており、小学校との繋がりも良いという意見がありました。以上で地理的分野についての説明を終わります。

新子教育長： 教育研究会・選定委員会によって選定された内容を報告いただきました。

田中委員： 今回の報告と同じような感じなのですが、東京書籍の方は5つの課題が現代的な主課題の学習を捉えながら進めるというのが良いと思います。またそれぞれの進め方のところで、課題・読み取る・進める・チェック・トライこういう形で生徒たちの思考、あるいは整理の仕方をしてるいうところが良い。最後の把握として深めるということが良い、全体的に写真が見やすい。もうひとつの日本文教出版、こちらの方は我々は大阪人ですので、大阪をテーマにしている部分があって全体的に関心の持てる内容。さらに見方考え方確かめようという形で、最後に確認できるのが良い。全体的な構成から見ると、私はこの2つが良いかなと考える。あとは皆さんの意見もお聞きして。

山崎教育長職務代理： 全者とも1時間の授業でどのような授業のやり方をするかということについて、考えます。写真や地図で興味を持たせている、また学習課題を示して、本文に入ると注意やコラムなど、最後はまとめなどがあり、生徒が主体的に学習ができるよう全者とも工夫されている。まず東書は各章の始めに小学校の学習を振り返るという活動が入っている、節の終わりには基礎基本のまとめということで確認の問もある。まとめの活動で話し合い活動を入れたり書き込んだりすることもしている、まとめや振り返り学習の活動が充実している。日本の領土問題や領域の問題については、他者でも記述されているが東書はページ数も1番多くて、北方領土、竹島、尖閣については写真も含めて大きくわかりやすく説明をしているなという感想を持ちました。日文の方は、地理+αこれは学習の内容を深める事ができるという感想を持った。スキルアップは技能習得を目指すということで、略地図の書き方も入っていて地理に興味を持たすと感じた。教育出版の方は、巻頭に「さあ地理の学習を始めよう」小学校と中学校の違い、特徴をきちんと生徒たちにわかりやすく説明しているなという感覚を持った。章の最後の方に「学習のまとめと表現」とうものでテストで確認をしたりまとめたり意見を交換しようなどがある。またワードチェック覧には、よい復習になるなと感じた。帝国には用語解説のページが巻末にはなくて、本文の中で解説として説明しており後ろの巻末を見なくてもわかるので大変わかりやすい。本文中に資料番号や、参照ページが丁寧な書き方をされており生徒たちにもわかりやすいのではないかという感想をもちました。

近藤委員： 東京書籍は色分けがあることですっきりと見やすくなっています。現地の人の話がたくさん載っており、その生活感がある内容は興味を引きイメージが湧きやすくなっています。日本文教出版ページ横に見出しがあり探しやすい工夫があります。25ページですが写真から特色を読み取る方法のページが詳しいです。第4章地域のあり方は、京都市のことが載っており身近で理解しやすいです。

西村委員： 少し被ってしまうかもしれませんが、東京書籍は図表が大きくすっきりして色合いも見やすく感じた。学習課題・見方・考え方・チェック・トライという流れが問題点

を捉えやすく、言語表現で考えをまとめやすいと感じた。歴史や公民との関連がQRコードで示されており社会全体の学習に役立つ。日本文教出版は世界編の写真が大きくてイメージしやすい。チャレンジ地理ではEU 離脱問題など社会的問題を詳しく書かれている。教育出版は冒頭に説明があり、地球的課題と目標の関連性を最初に示しているため地理的な勉強をどうしてするのかと社会的な事と関連付くには良い示し方。ただしアニメ調の人物が多くてごちゃついている。帝国は地図が見慣れているが、巻末資料がないのは調べにくく、情報量が少なく感じた。東京書籍と日本文教出版のスキルアップの項目が良かった。

新子教育長： 教育委員の先生方におかれましては、東京書籍、日本文教出版かなと感じ取ったが、目標、内容の取扱いあるいは配列、創意工夫、選定委員会での審議や皆さんのご意見をもとに、東京書籍でと思っておりますが、いかがですか。

新子教育長： はい。それでは地理的分野につきましては、東京書籍ということで、ご確認をお願いいたします。

新子教育長： はい。それでは引き続きまして、道徳につきまして、菰池主査よろしく願いいたします。

菰池主査： それでは、道徳について説明いたします。道徳につきましては、東京書籍、教育出版、光村図書、日本文教出版、学研、廣済堂あかつき、日本教科書の7者でございます。まず、「目標、内容の取扱い」についてです。廣済堂あかつき1年10～14ページをご覧ください。「読み物教材中心に構成されており、各教材の『考える・話し合う』も本文の中にある『道徳的価値』に迫る内容となっている」と柏教研からの意見書にあがっております。東京書籍1年106ページ、同じく東京書籍3年140、175ページをご覧ください。「よく知られている題材が多く、生徒の心に寄り添える題材が多い」と柏教研からの意見書にあがっております。次に「人権の取扱い」についてです。光村図書3年94ページをご覧ください。「共生・ユニバーサルデザインについて触れられており、総合的な学習に共通して学ぶことができる」と柏教研からの意見書にあがっております。廣済堂あかつき1年36～41ページをご覧ください。「『いじめ』が特活的な取り扱いでなく、生徒に考えを深めさせられる教材である」と学校からの意見書にあがっております。次に「内容の程度」です。大阪府の選定資料には、どの教科書についても、「発達の段階を考慮し、指導のねらいに即した内容となっている」とあります。日本文教出版については、「定番教材と現代風のものとのバランスが良い」と柏教研からの意見書にあがっております。

次に「組織・配列」です。学研3年29ページをご覧ください。

新子教育長： 学研の何年生？

菰池主査： 3年29ページになります。「題材の中でこれからについて考えることができ、話に入りやすい。また、ワークシートが入っているので見通しやすい」と調査員からの報告にあがっております。日本教科書1年目次をご覧ください。「資料の並び順が、内容項目のABCD順になっているので、内容項目がわかりやすい一方、前から順に実施しづらく、実施資料の順について検討する必要がある」と柏教研からの意見書にあがっております。次に「創意工夫」についてです。日本教科書3年191、192ページをご覧ください。「最後に1年間の振り返りシートがついている」と柏教研からの意見書にあがっております教

育出版2年生192ページをご覧ください。「1学期ごとのふりかえりと、1年間のふりかえりができるシートがあり、切り取って使えるようになっている」と柏教研からの意見書にあがっております。次に「補充的な学習・発展的な学習」についてです。日本文教出版1年別冊をごらんください。学校からの意見書には「別冊ノートで考えを深めることができそう。活用の仕方の工夫で生徒の深い考えを引き出せると思う」とあります。廣濟堂あかつき1年別冊をご覧ください。「道徳ノートは、独立性が高いため宿題や自習でも取り扱いが可能。学びのおさえや自己の生き方について照らして考える際に有効である」と学校からの意見書にあがっております。次に「幼小中一貫教育の観点」についてです。東京書籍1年180ページ、光村図書1年174ページをご覧ください。「付録に小学校の教材を入れている」という趣旨の内容が学校からの意見書にあがっております。最後に選定委員会の意見を報告します。廣濟堂あかつきについて、柏原市が研究蓄積している教科書であることや、授業において自由に活用でき、子どもの生活から振り返る視点があることの良さが意見として出ました。以上で道徳についての説明を終わります。

新子教育長： はい、ありがとうございます。なかなか追えなかったところが、たくさんすぎて。ご意見ございましたらお願い致します。近藤委員お願いします。

近藤委員： 日本文教出版、別冊ノートがあります。教材ごとにページがあり薄く使いやすいそうです。学年毎にある情報モラルのページは具体的で充実しています。いじめについて多く扱われています。廣濟堂あかつき。イラストがやさしくさりげないものが多く、考えの邪魔にならないと感じます。教材の後の考える、話し合うが考えを深めていきやすくなっています。東京書籍。マンガが使われていたり、親しみやすい内容です。最後の方に自分の学びをふり返ろうがあり、書きやすい内容で、評価の資料として活用できそうです。以上を候補に考えております。

新子教育長： はいありがとうございます。いかがでしょうか。

山崎教育長職務代理： じゃあいいですか。

新子教育長： はい。山崎委員お願い致します。

山崎教育長職務代理： 私は中学校の先生は小学校と違って教科担任制ですので、毎時間生徒を見ている訳にはいかないのです、生徒をよりよく理解するためには、やっぱり道徳の時間というのは道徳ノートが付いた方がよりやりやすいんじゃないかというふうに思いました。従って日文と廣濟堂あかつきが道徳ノートがついていますので、この2者が中学校では大切ななという感じを持ちました。で、まず廣濟堂あかつきですが、先程の話ありましたが、廣濟堂あかつきの道徳ノートは本冊と同じではなくて、22の内容項目別に作られています。教材の道徳的価値を解説した文章が別にありまして、価値の自覚を深める問い等があります。ということで、日文と比べると、日文の場合には教科書の中にある教科書の中で教材の終わりにある考えてみようとか自分にプラスワンという発問が同じようにこの道徳ノートに載っておりまして、教科書をやりながら道徳ノートを使うという、こういうやり方をとっています。従って、現在も廣濟堂あかつきを使っている訳ですが、中学校の道徳をされる担任の先生は大変本冊と別の教材をやるものですから、宿題にするとか、あるいは授業で道徳ノートも別にやるとかいうことで、大変苦勞されているのではないかと

思います。そういう意味では大変難しい訳ですが、中身としては私は日文の方がちょっと易しすぎるんじゃないかという気がしますので、こういう意味で行けば廣濟堂あかつきの方が適切かなという気が致しました。廣濟堂あかつきの方は、大判A B版でちょっと重たいなという感じがします。逆に日文の方が小判で、ずいぶんあかつきと比べると軽いなという感じがしました。ただあかつきや日文の方は、いじめではやっぱりユニット化されて随分量も多く取り上げていて、充実をしていました。それからちょっと他の会社もちょっとお話だけさせていただきます。学研の方は、これは前回の時と学研は変わったなと思って見ていたんですけど、教材の初めに教材の短くテーマを示しています。それから終わりに考えようの中で2つの発問をのせるように、2つの発問をのせて考えさせています。前回は導入の部分ではテーマはなくて、本文を読んでしっかり考えなさいというような発想だったんですが、授業の最初の導入で随分わかりやすくなったなという感じがしました。それから教科書の中に学研の方はメモ欄があったり、あるいは深めようというところでワークシートになっておりまして、考えを記入できるようになっているんですが、教科書に書きこまれても担任の先生はちょっと評価として使うのはですね、教科書を集めるというのはちょっと大変やなあと、またワークシートをもう一回作り直さないといけないなと感じて見ておりました。それから東書の方ですが、目次の次に解説のシート、それから話し合いの手引き、道徳の授業はこんな時間に等というのが入っておりまして、とても親切で丁寧な書き方をしているなという感じを持ちました。1年間で学ぶこととして、35の教材を4つの視点にまとめて示していて、道徳のガイダンスとしても大変東書はやりやすいという感じを持ちました。それから、教材の終わりに考えよう、自分を見つめようというのが1つずつあって、中心発問となって大変教えやすいなという感じがしました。それから教材の最後の方に、小さなわずか3行ですが、つぶやき欄というのがあって、ここに記入をできるようになっているんですが、子どもは、生徒はつぶやき欄に記入ができるというところでなんか活動ができる訳ですけど、先生はこれはちょっと大変だなと思いました。教育出版の方は、教材名の下に最初から導入として発問があり、考えさせています。また、最後に学びの道しるべで3つの中心発問がありました。大変教えやすい教科書だなということと、最後の方に5つの補充教材が出てくるんですが、これについては前回はなかった、こういう導入の発問とかはなかったんですけども、この補充教材にもちゃんとつけるようになっておりましたので、これも改善されたなという感じを持ちました。それから光村へ行きまして、教材を4月から3月にかけて3つのシーズンに分けて、4月の最初の教材として道徳の授業を始めよう、があり、なぜ学ぶのか、どうやって学ぶのか等道徳の授業について学習するようになっていて、大変これもわかりやすいと思いました。それから、巻末に学びの記録があり、毎時間ごとのまとめを記入できるようになっていて、これは切り取って使えるようになっていきますので、先生はこれは、大変評価に、切り取れば評価に使いやすいなという感じを持ちました。それから日本教科書の方は、先程のお話ありましたが、目次がですね、A B C Dの4つの視点で書かれているので、これは指導要領の内容項目順ですので、これをやられても担任の先生は授業としては、順番がとても学年・学校の実態とか季節等に合わせてですね、また組み直しをしないとだめですので、これもまた大

変だなということと、それから各教材とも教材名、本文、それから最後に考え、話し合ってみよう、そして深めようというので2、3の発問があり、とてもシンプルでした。本文より前に主題名とかテーマを示さないで、本文を読んで考えるようにさせていますが、中学校の道徳というのはかなり長文ですので、なかなかきちんと読解するのもしんどい生徒も中にはいるだろうと思います。こういう中ではやっぱり本文の前に主題とかテーマを出した方が分かりやすいんじゃないかなという感じを持ちました。それから目次と同じで、巻末の方の学習指導要領対応表というのがあるんですけども、これは指導要領の22の内容項目をそのまま教材と対応させて一覧にしてるんですが、先生や保護者にとっては学習指導要領とリンクしていますので、大変わかりやすいんですが、生徒にとってはこれはいらぬ中身だなという、教科書には必要ないんじゃないかというそんな感覚を持ちました。以上です。

新子教育長： はい、ありがとうございます。田中委員お願いします。

田中委員： 実は私最近問題になっている情報モラル、やっぱりいじめにつながる観点でさせていただくと、とても多く取り上げている東京書籍そして日文、廣済堂あかつき、そういったところだと思います。それぞれ取り扱ってもらってるんですけど、違うので、その3者がよかったかなと思います。あとノートの観点で見ると、生徒がそれぞれの自分の意見を書きやすいというところで考えると、道徳ノートのある日文、廣済堂あかつきですね、ここが良いかな。その中でも廣済堂あかつきの方が生徒と教員にとっても使いやすい形になっているんじゃないかというふうに考えました。またシンキングという形で考えさせるということもいいかなと感じました。以上です。

新子教育長： はい、ありがとうございます。西村委員お願いします。

西村委員： 私もまず別冊があるかどうかという観点と、あと導入がどういう観点になっているかを中心に見ました。別冊がある方が私も持ち帰りであったりとか、個人個人の意見も拾い上げやすいと思うので、付いている方がいいと思います。導入で少し押し付けがましくないかなとか、逆にちょっと端的過ぎて先生の力量が問われるのかなという教科書もありまして、その中ではあかつきが、1年生が自分を見つめて、2年生が自分を考えて、3年生が自分を伸ばすというところで、共通的に見ながら段階を踏んで視点を変えているところが非常に好感が持てまして、よりよく生きるとかいうところではなくて、自分らしく生きるということが少し強調されているところが道徳として偏っていないような気がしまして、あかつきがいいかなと思いました。

新子教育長： ありがとうございます。はい、ご意見を聞かせていただきました。道徳ノートについて、その活用ですね、あるいは項目別にしっかり学べるということ、で、菰池主査の方から最終的なまとめの中でずっと中学校はあかつきの方を研究していると、で、昨年度も大阪府の発表会、中河内大会がありましたけども、本市の方でも積み上げた中で教科書を使った発表と、あとそれぞれの学校で指導案等もしっかりと作り上げてきておる、研究を進めておるといふような流れから致しまして、ご意見いただきました廣済堂あかつきの方でとっておりますが、いかがでございましょうか。

委員全員： はい。

新子教育長： はい。ありがとうございます。

新子教育長： そうしましたら引き続き菰池主査の方から歴史、よろしく願い致します。

菰池主査： はい、それでは、歴史について説明いたします。歴史につきましては、東京書籍、教育出版、帝国書院、山川出版社、日本文教出版、育鵬社の6者でございます。まず、「目標、内容の取扱い」についてです。教育出版56ページをご覧ください。「章末には各章のまとめや重要単語があり、知識や学習内容の確認が行える」と調査員からの報告にあります。育鵬社20～23ページをご覧ください。「『鳥の目』で歴史の流れを俯瞰し、『虫の目』で時代の特色をつかめるように系統立てられている」と調査員からの報告にあがっております。次に「人権の取扱い」についてです。東京書籍140、141ページをご覧ください。「アイヌ民族の歴史を文化をテーマにして、コラムや発問などが設定されている」と調査員からの報告にあがっております。山川出版社42、43ページをご覧ください。「他者と比べ、書体が小さい」と報告が学校からの意見書にあがっております。次に「内容の程度」です。山川出版社64、65ページをご覧ください。「課題や発問が多く付されていて、生徒一人一人が課題を追求できるようになっている」との報告が学校からの意見書にあがっております。41ページをご覧ください。「『歴史の技』を設けてあり、資料の活用にかかわる問いを通じて、歴史学習の基本技能を身に付けられる工夫がされてある」と調査員からの報告にあがっております。次に「組織・配列」についてです。日本文教出版目次1ページをご覧ください。大阪府の選定資料には、「時代を見通す『導入』、『本文』、資料をもとに考える『チャレンジ歴史』、学習の幅を広げる『歴史を掘り下げる』、学習した時代の特色を考える『学習の整理と活用』という流れで単元が構成されている」とあります。帝国書院巻頭2ページ、24、25ページをご覧ください。「第1部で歴史を学ぶ上での基本則、第2部で1章から6章にわたって古代史から現代史までを扱っている。各章に『タイムトラベル』という時代を概観する大きなイラストが描かれており、生徒の気づきを促す」と調査員からの報告にあがっております。次に「創意工夫」についてです。東京書籍19ページをご覧ください。「各章ごとに探究課題があり、めあてを考えやすい」と調査員からの報告にあがっております。日本文教出版18ページをご覧ください。「毎ページ学習課題が設定されており、めあてに沿って学習を展開しやすい」と学校からの意見書にあがっております。次に「補充的な学習・発展的な学習」についてです。大阪府の選定資料には、東京書籍、教育出版、帝国書院、山川出版社、日本文教出版については、「二次元コードがあるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる」という趣旨の内容が書かれています。教育出版116、117ページをご覧ください。「『歴史を探ろう』では、発展的な学習につなげやすい」と中学校からの意見書にあがっております。

次に「幼小中一貫教育の観点」についてです。どの教科書についても、小学校で学んだことについて扱われている趣旨の内容が調査員からの報告にあがっております。教育出版2、3ページをご覧ください。「すごろくなどのゲーム感覚で小学校の復習ができる場面がある」との報告が調査員よりあがっております。最後に選定委員会の意見を報告します。「各章に年表がついており、日本史と世界史の関係が分かりやすい点や、興味をひきやすい点

から教育出版が良いのでは」という意見がありました。また、「各章において、学習課題にプラスして『見方・考え方』も記されている日本文教出版についても良いのでは」という意見もありました。以上で歴史についての説明を終わります。

新子教育長： はい、ありがとうございます。いかがでしょうか、教育出版、日本文教出版等の名前が挙がっておりますが。

山崎教育長職務代理： じゃあよろしいですか。

新子教育長： はい、山崎委員、お願いします。

山崎教育長職務代理： まず、どの教科書も1時間の授業でまず導入の絵・写真・資料それから学習課題というのがもう出てきます。それから本文があります。最後に会社によって書き方は違いますが、表現とかチェックとか、確認、捉え等という形でまとめとか確認があつて、授業が課題解決型の授業になっています。全者ともそうなっておりまして、社会科の授業っていうのは暗記型の授業だなというのが、昔はそうだったんですけども、もうやっぱり社会科というのは地理も歴史も公民も含めて暗記もありますが、やっぱり課題解決型の学習をさせていくというのがもうきちんと定着したなという感覚を持ちました。まず東書ですが、本文の下に年表スケールが付いていて、学習している時代がすぐにわかるというのが良いところだと思います。それから、第1章の歴史の扉、最初の出発のところですが、歴史の扉は大事な内容だけれどもちょっとごちゃごちゃして、東書にしてはちょっと見にくいなという感じを持ちました。教育出版ですが、各章の初めに日本と中国、朝鮮の年表を示して、時代をわかりやすくしています。また、絵や写真で2ページにわたって学習を始めようというのが各章の始めにありまして、大変わかりやすい導入となっています。それから、各章の最後には学習のまとめと表現として問題を示し、まとめさせています。また、時代の変化に注目しようで、時代の特色を学ばせています。それから、歴史をさぐるというのが各章の中にあつて、歴史を深める学習ができるようになっていきます。大変わかりやすく、丁寧な教科書だなという感想を持ちました。日文ですが、人権尊重という視点でいけば、江戸時代の身分制であるとか、部落解放運動であるとか、こういったことについては、大変丁寧に書かれているなという感想を持ちました。また各編の最初の導入のページで時代がわかる絵や写真を2ページ、地図で見る世界の動きを2ページ、また最後に学習の整理と活用で2ページ、こんなふうな形で学習させるようにしてこちらまあ大変丁寧な教科書だなという感じを持ちました。育鵬社ですが、前回の時もそうだったんですが、大変特徴があります。高句麗の好太王碑のこと、あるいは渡来人と言わずに帰化人という言葉を使ったり、日本人の宗教観、神道の特色、そして皇室の行事を載せたり、神話で記紀あるいはいざなぎ、いざなみから神武天皇、三種の神器まで、あるいは247ページにも写真で、敗戦当日皇居前に集まった人々がありますが、多くの人々が戦争に敗れたことを天皇にお詫びしているという言葉が入っております。あるいは、国民と共に歩む天皇、年号と日本の歴史、というようなことが書かれておりまして、日本の美しさ、すばらしさあるいは天皇であるとか神話であるとか、大変勤勉な国民性であるとか、こういったことがたくさん書かれておりまして、他の教科書には無い特徴になっています。ただ、前回と比べてですね、随分こう色々工夫がされておりまして、各章の最後

に学習のまとめがあつて、確認のテストになっていたり、序章に地域の歴史を調べてみようという、生徒の調査活動をテーマに大阪の歴史を6ページにわたって取り上げてくださっているのです、これも大変大阪にとっては興味深いなと思いました。それから先程もありましたが、歴史絵巻、鳥の目・虫の目で見える絵というのが大変わかりやすいものであるなというそういう工夫がされています。ただ、非常に特徴のある教科書になっております。帝国の方は各章に2ページにわたってタイムトラベルとして時代を的確に表す絵を載せていて、問いもあつて迫力があつて、大変わかりやすいと思います。コラム欄が多くて、学習が豊かになるような工夫がされています。山川は各章の始めに絵や写真で時代を大きく掴み、年表は日本史と世界史の2つあつて、世界全体の中で日本史を理解できるように工夫がされています。章の終わりにはまとめが2ページあつて、課題や発問がたくさんありました。歴史を考えよう、歴史へのアプローチ、地域からのアプローチ、2ページにわたって余裕をもって考えさせるページになっているなと思いました。ただ、本文の方は文章が多くて文字が小さくて少し見にくい感じがするな、そういう感覚を持ちました。以上です。

新子教育長： はい、ありがとうございます。いかがでしょうか。田中委員お願いします。

田中委員： はい。歴史の各ページに年表のような形でつけているのが、教育出版と帝国ですかね、これがそれぞれのページでありながら、自分の該当している時代が常に見ながらわかるということが工夫されていいと思いました。それぞれ詳しく書かれている分、逆に見にくくなっている、東書なんかも詳しく書かれているんですけども、年表なんかも見にくくなっている箇所もあります。それから教育出版のところは別冊も見やすく、先程も出ていましたけども第1章のすぐろくへもっていけるような形になっていましたが、これはかなり教育学的に最初に取り掛かるには本当に興味を持たせるには良いんじゃないかなというふうに思いました。また、それぞれの印刷も教出、教育出版は見やすかったというふうに思います。で、あと帝国もタイムトラベル等工夫がされているのも良かったかというふうに思いました。日文につきましても、年表が見やすいことと、見方・考え方・深めようそういった取組みですね、考え方を進めていくその段取りも良いかなと思います。さらに、二度の世界大戦と日本人の捉えようというそういう考え方が、今後平和に関して生徒たちの意識を高めるという意味ではいいと思ったのと、そしてチャレンジ歴史、これも先程も出ていましたけども、その点評価できるかなと思います。他の者はそれぞれ一長一短がありますので、その3者が、特に教育出版・日文がいいかなというふうに思います。

新子教育長： 西村委員お願いします。

西村委員： はい。私もページ内に年表があるのが非常に見やすいと思ひまして、その見やすさで言いますと教育出版と日文が見やすいと思ひました。日本の時代と世紀と比較されており、歴史の日本の情勢と世界の情勢を交互に出てくるので、そのあたりが比較的時代の流れが掴みやすいので、ページの中に年表があるのが良いと思ひました。特に教育出版の方が見出しが非常に硬くないというか、興味を引くような見出しが多くて、太陽が沈まない国であるとか戦国の世に現れた南蛮人であるとか、歴史の物語としてのおもしろさを教えてくれるような教科書のように思ひました。日文の方も掘り下げる内容が深くて非常

におもしろく感じました。全体的に近代がほぼ半分を占めているところは、全体教科書どれも一緒かなという感じでした。教育出版が比較的良いように思います。教育出版か日文が適切かなというふうに私も感じました。以上です。

新子教育長： はい、ありがとうございます。近藤委員お願いします。

近藤委員： はい。教育出版、ページの中程に時代スケールがあり、世界との関係がわかりやすいです。学習のまとめのページも日本の動きと世界の関わり全体像が見易く、充実しています。日本文教出版、章の始めにある地図で見る世界の動きはわかりやすいです。右端の年表が見出しになっていて工夫されています。女性史コラムが各時代にあり、当時の女性の日常が紹介されています。東京書籍、資料や図が大きく見やすくなっています。特に資料から発見のページは細かい部分までよくわかり、その時代の様子を話し合いながら読み取ることができます。この3つが良かったかなと思います。

新子教育長： はい、ありがとうございます。ご意見をいただきまして、教育出版、日本文教出版なんですけども、小中一貫ということから考えれば小学校で取り扱われている内容が教育出版ではつながっていくということでございますし、もう一点は、日本史、世界史が非常につながりがわかりやすいことも意図もしていただいております。その点から教育出版の方で考えておりますが、よろしいでしょうか。

委員全員： はい。

新子教育長： ありがとうございます。教育出版でお願いします。

新子教育長： それでは、川口指導主事から公民についてお願いします。

川口指導主事： それでは、公民について説明いたします。公民につきましては、東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社の全部で6者でございます。まず、「目標・内容の取扱い」についてです。東京書籍について、111ページをご覧ください。「『みんなでチャレンジ』などで示された課題を通して、社会的事象の意味や特色を、多面的・多角的に考察したり、公正に判断し、説明や議論したりできるよう取り扱われている」と大阪府の選定資料に書かれており、学校からは「『みんなでチャレンジ』は話し合いを進めるうえで有効」との意見があります。日本文教出版について、108ページをご覧ください。「各ページに『学習課題』があり、課題を解決するために『見方』・『考え方』を設け、課題解決のヒントになっている」との意見があります。次に「人権の取扱い」についてです。東京書籍について、52、53ページをご覧ください。「『インクルージョン』や『性への多様性への理解』など近年取り上げられるようになった新しい人権や考え方についてしっかりと取りあげて述べてあり、自他を敬愛する心の育成に努めている」と調査員から報告があがっています。帝国書院について、56ページをご覧ください。「社会の変化に対応した新たな観点として、外国人の権利が取り上げられている」という内容のことが大阪府の選定資料に書かれています。次に「内容の程度」です。東京書籍について、32ページをご覧ください。「章末での『探究のステップ』では学習を振り返って整理し、思考・判断したことを説明したり議論する力を育くんでいる」と調査員から報告があがっています。自由社について、76ページをご覧ください。「見開き1ページに対する文章記述の量は少なめで、注釈部分の説明が、広めにとられた欄外に多く説明されている」と調査

員から報告があがっています。次に「組織・配列」についてです。教育出版について、218、219ページをご覧ください。「各分野や他教科の学習内容やSDGsとの関わりが見開き下部に示されている」と大阪府の選定資料に書かれています。日本文教出版について、202ページをご覧ください。「各分野の学習内容との関わりが見開き左下部に示されている」と大阪府の選定資料に書かれています。次に「創意工夫」についてです。自由社について、34、35ページをご覧ください。「本文頁に余白を多くとってある。学習時に教科書に直接書き込むスペースとして活用できる」「教科書全体を通して、単元に通し番号を振っている」と調査員から報告があがっています。帝国書院について、30ページをご覧ください。「『未来に向けて』のページなど、将来に向けた社会参画の意欲を高めるページが多く設けられている」と学校から意見があがっています。次に「補充的な学習・発展的な学習」についてです。東京書籍について、21ページをご覧ください。調査員から『チェック』と『トライ』を配し、基礎的事項の確認と発展的な学習の考え方を示している」という報告があがっています。教育出版について、23ページをご覧ください。調査員から『確認』『表現』を各単元に配し、基礎的事項の学習の確認とともに発展的な学習にもつながるようになっていく」という報告があがっています。次に「幼小中一貫教育の観点」についてです。東京書籍について、179ページをご覧ください。「それぞれの章での学習内容が小学校での既習事項とどう関係があるのかを示すことで、小中のつながりをもたせる構成となっている」と調査員から報告があがっています。育鵬社について、167ページをご覧ください。「各章の扉部分で小学校での学習内容を振り返り、その章での学習の導入としている」と調査員から報告があがっています。最後に、選定委員会の審議を報告します。東京書籍について、「章の終わりの『探究のステップ』が考えを深めていける。また『基礎・基本のまとめ』として習った語句を自分で説明する問題があるのも良い」という自学自習、新学習指導要領への対応の観点からの意見や、「選挙権の年齢が下がってきたことを考えると、生き方を考えることや政治に関する内容に大きくページを割いていることが特徴的である」との意見がありました。教育出版について、「経済に大きくページを割いている」という意見や「写真が多くて良い」との意見がありました。以上で公民についての説明を終わります。

新子教育長： ご意見ございましたらお願いします。近藤委員お願いします。

近藤委員： 帝国書院、ページの左上の資料が印象的で、資料活用の際は興味や関心を引く内容になっています。仕組みを表す図がわかりやすいものが多かったです。東京書籍は資料部分と文章部分がうすく色分けがあり見やすいです。18歳へのステップとして選挙と契約についてのページがあり近い将来を意識できます。日本文教出版は資料に多くある漫画がわかりやすいです。特に各編最初の漫画はこれから学ぼうとしていることをわかりやすく身近に感じさせてくれます。86ページの新聞の読み方伝え方は、見方考え方を養える内容になっていました。教育出版は、章の振り返りが活用しやすそうです。言葉で伝え合おうでは、ディベート・プレゼンテーションなど表現の活動を学ぶ内容で、人権・裁判員裁判・起業など考えを深めてほしいテーマでした。以上です。

新子教育長： はい。ありがとうございます。いかがでしょうか。

山崎教育長職務代理： 全者、先ほどもお話申し上げましたように、どの教科書も1時間の授業で導入資料、学習課題、本文で学習し、最後に確認、説明しよう。チェックやトライ、表現などでまとめて、課題解決型の学習になっています。まず日本語ですが、各編の最初に導入のページとして2ページ、学習のはじめにを漫画でかいています。こうすることで、この編で学ぶ内容をわかりやすくおおまかにつかむことができます。また編の最後に、学習の成果活用があって、いろいろな問いかけでまとめることができるようになっていきます。それから教科書の下段に連携コーナーとして、小さな文字で、地理、歴史、小学校などと書かれておまして、連携していますよということがわかるようになっていきます。それから、本文をよく理解するためのコーナーやコラムに、アクティビティー、公民+αがたくさんあって、大変面白いなと思いました。それから東書ですが、章の構成が最初に導入の活動を学習して探究課題を立てる。これはあわせて3ページあります。本文で学習した後、探究のステップのと通りの解決1ページ。基礎基本のまとめ1ページ。で、確認の問題。まとめの活動2ページ。で、考え、話し合い、探究課題を解決する。こんなふうにしちつとしたステップをふんで、主体的に学習ができる工夫がされていて、章全体を見ながら学習がまとめてできるというふうにつくられている、大変丁寧な教科書だなと思いました。それから、先ほどもありましたが、コラムのみんなでチャレンジは話し合い活動に使えるそうだと思います。それから、公民にアクセスは、関連することが詳しく書かれていて大変面白いなと思いました。3年の最後の章ですが、よりよい社会をめざして、生徒たちに課題把握、探究、意思決定、提案、そしてレポートを書きなさいという中身になっているんですが、中3の最後であったらできるかな。しかしなかなか手ごわいなと。しっかり最後勉強してレポート作成して終わるんだなと思いました。なかなか勉強させる教科書でありました。それから教育出版ですが、各章の初めに学習のはじめにが2ページ。それから導入と学習の見通しを立てて、本文の学習のあと、章の最後に学習のまとめと表現が3ページ。ステップ1から3になっていて、確認のための問いや話し合い活動、考えを深める、活用ができる。とてもステップを踏んだやさしい教科書だなと思いました。それから本文以外に図や資料、解説などわかりやすくする工夫が大変多い教科書だなということ。言葉で伝えあおうを各2ページあるんですが、ここではディベート、メディアリテラシーを学ぼう、裁判員裁判、プレゼンテーション、企業にチャレンジ、レポートの作成、こういったことが出ていて、生徒に活動させるようになっていました。とてもやさしい教科書だと思うんですが、もう少ししっかり考えさせてもいいかなという気はいたしました。帝国の方ですが、章の頭に学習の前にはがあり、学習する内容についてイラストで概観し、導入としての問いがあって見通しが持てるようになっていきます。また章の最後に章の学習を振り返ろうがあって、学んだことを確かめ、思考力や表現力を高める問いや取組みがあって、まとめとしてとてもいいなと思いました。用語解説は帝国はいつも、どの教科書もそうですが、後ろの方の巻末にあるのではなくて、本文の中で出てきますのでわかりやすいなという気がしました。それから、技能を磨くというコラムですが、議論、話し合いの仕方というふうになっておまして、ロールプレイング、ディベート、ディスカッション、KJ法などが出ていて、大変有益だと思いました。アクティブ公民というコラムがありま

して、これも10テーマ話し合い活動になっていました。それから未来に向けてのコラムも社会参加を積極的に行う参考としてとてもいいものだなと思いました。育鵬社ですが、こちらの方は大変特徴があります。まず一番最初になぜ公民を学ぶのか。育鵬社では、公民とは自分を国や社会など公の一員として考え、公のために行動できる人のことを言います。というところから始まっています。それから学習を深めようというところでは、情報と大規模災害、異例の天皇陛下のビデオ放送、日本の歴史、文化と天皇では皇室や天皇について、北朝鮮による日本人拉致問題、拉致問題とわたしたち、これは3ページにわたっています。それから伝統文化とはということで皇室の文化や祭祀、日本国憲法の制定ではGHQが作成してと明確に書かれています。皇室と国際信念、アメリカのトランプ大統領夫妻をお迎えする天皇皇后両陛下というようなことで、皇室関係のこととか拉致問題のこととかを非常に特質されて書かれています。ただ一方で章の最初に小学校で学習したことや、入り口として学ぶ内容が2ページにわたって導入として入っています。また章の最後には2ページでこれからの課題を考えさせ、学習のまとめで振り返る間があって、大変先生としても授業しやすいようになっていました。それから1時間の資料は導入の資料や写真、学習課題があって、本文最後に学習のまとめ、問題解決型の学習になっています。まとめは思考力・判断力・表現力を育むようになっていました。こういったことでずいぶん工夫はされているなと思いました。自由社ですがこちらもとても特徴がありまして、巻頭写真すごいで日本の技術は、で日本の素晴らしさを出しています。公民を学ぶ目的、私たちは日本という国家を支える公民として公民の授業をしっかり学びましょうというところから始まって、もっと知りたい大きなコラムという2ページにわたるコラムでは、一つ目は日本人の精神、ウズベキスタンの日本人。サッカーワールドカップの日本人、あるいは宗教とはなんだろう。伊勢神宮と信仰。立憲主義を受け入れやすかった日本の政治文化、権威としての天皇、天皇のお仕事、宮中祭祀、国旗と国歌を考えてみよう、日本人拉致問題あるいは文化大国、伝統と文化、国民性、そして国としての品格、勤労と勤勉、家族愛、愛郷心から愛国心へ、日本国憲法の成立、これはGHQの指示でできているという書き方です。それから天皇の役割と国民主権、こういったことが教科書のあちこちに出てまして、非常に特徴のある教科書になっています。ただ育鵬社もそうですが一方で1時間の授業では導入としての資料や写真があり、学習課題があって、本文で深めるようにして、授業させるようになっていました。それから最後に学習のまとめと発展が1ページあるんですが、学習のまとめでは学習のふりかえりを、それから学習の発展では発展的な課題を示しています。いずれも100字、200字、400字で自分なりに、生徒にノートにまとめなさいとさせるんですが、なかなか公民は3年でやるとしても、毎時間最後に100字、200字、400字でまとめるというのは生徒にとってもちょっと大変は大変だなという感じがいたしました。以上です。

新子教育長： はい、ありがとうございます。田中委員。

田中委員： 東京書籍ですけどもSDGsを表紙裏表ともに使っているということで、今後、これからの社会を考えていく上で、公民とは大切な分野だと思います。それから、3年生のよりよい社会をめざしてというところで、これも良かったなと思います。あとは導入の

活動、まとめの活動、もっと公民という展開の仕方が中学生にとってはいいのかなと思います。続いて日文ですけども、こちら表紙見開きでSDGsがあって、次のページをめくりますと、地理歴史とのつながり、そして公民をしっかり学び合っていくことが大切なんじゃないかなと思います。また最後の裏表紙の所には日本の人口を100人に縮めてみるとのところ。ここも概要がわかって良いと思います。こちら全体的に興味深くわかりやすくまとめているかなと思います。明日に向かってチャレンジも良いと思います。あと教育出版にも巻末にSDGsや国際貢献などしっかりと取り組んでいます。帝国については小の学習を振り返ろうやアクティブ公民の所が興味深いかなと思います。以上です。

新子教育長： はい、ありがとうございます。西村委員、お願いします。

西村委員： どの教科書も現代社会をよく分かる、内容的に濃い教科書だなと思って見ていたんですけども、教育出版が社会保障が別枠になっていて、第5章が社会保障と日本経済の課題になっています。他の教科書は経済と物流が一緒に入っているんですけども、その分少しわかりやすいのかなと思って見ると、やはりこれは社会保障が経済の中に入れていく方が、全体のつながりとしてわかりやすいのかなと思いました。教育出版は全体的に読みやすかった。学習の見通しとか導入がわかりやすかったんですが、この辺の構成が少し気になったところでした。東書の方は内容的にすごく一番濃いように感じましたけれども、具体性がある具体的な問いがかけあったりとか身近な話題が多かったりするので、それほど難しいという感覚はなく、学びたいことは深く学べるのではないかな、あと主張が全体的にニュートラルな感じがしています。帝国の方はさらに身近な話題がふんだんに取り入れてあって公民が身近なんだなと印象をもちました。この3冊がいいなと感じました。

新子教育長： はい、ありがとうございます。東京書籍や教育出版の話が多かったんだと思うんですけども、山崎委員もおっしゃられたように探究のステップが学習を振り返る、思考判断したことを説明し、議論していく。まさに新指導要領の改訂に伴って主体的・対話的で深い学びというところからすれば、非常に授業を進めやすいということも考えられます。東京書籍さんの方がそのような内容をクローズアップしていて、総合的に皆さんのご意見から判断しながら、東京書籍さんの方で考えますがいかがなものでしょうか。

委員全員： はい。

新子教育長： はい、ありがとうございます。ちょっと時間が予定よりオーバーするんですけども、5分間休憩を取りたいと思いますので、後ろの時計で15分くらいをめぐりにはじめさせていただくということでお願いします。

新子教育長： それでは、再開します。川口指導主事より、理科をお願いします。

川口指導主事： それでは、理科について説明いたします。理科につきましては、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館の全部で5者でございます。各者とも2年生の教科書を例に説明させていただきます。まず、「目標・内容の取扱い」についてです。各者とも理科の目標を達成するために、「適切な内容が取り上げられている」と大阪府の選定資料に書かれています。東京書籍について、③ページをご覧ください。「授業の流れを見通せるように『探究の流れ』をフローチャートで示している」と学校からの意見があります。次に「人権の取扱い」についてです。啓林館について、2年生185ページをご覧ください

い。大阪府の選定資料には「生徒の安全の確保や事故防止について、『観察・実験の注意・安全』マークで示すとともに、文字を赤字で示し、危険が回避できるよう配慮されている」と書かれており、「配置が決まっていて知りたい情報を探しやすい」と柏教研から意見があがっております。調査員からは生徒のイラストについての意見があり、大日本図書、学校図書、教育出版について、男女ともに同じ制服を着用していることから「LGBTに配慮している」と報告があがっています。東京書籍について、2年生52ページをご覧ください。「イラストに、外国にルーツをもつ生徒が活動する様子も掲載されている」と調査員から報告があがっています。次に「内容の程度」です。啓林館について、2年生92ページをご覧ください。「生徒が勘違いしやすい基本事項には、『なるほど』のコーナーで正しく理解できるように情報提供している」と調査員から報告があがっています。学校図書について、2年生11ページをご覧ください。「探究活動のための予備時間を約3割設定し、配当時間を7割程度に抑えている」と調査員から報告があがっています。次に「組織・配列」についてです。大阪府の選定資料には、各者とも「各分野の目標や内容を踏まえて、教科横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている」と書かれています。学校図書について、2年生巻頭の4ページをご覧ください。「『理科のトリセツ』としてSDGsや探究の進め方や方法、ノートのとおり方などについて詳しく紹介している」と調査員から報告があがっています。次に「創意工夫」についてです。東京書籍について、本体をご覧ください。「縦長のA4スリム版で、見やすく片手で持っても両端まで見える」と調査員から報告があがっている一方で、学校からは「横幅が狭いため、開いた状態にしにくく見づらい」との意見もあがっています。啓林館について、2年生巻末をご覧ください。「探究シートが教科書の最後に用意されていて、授業で活用したり自学自習に使いたりと便利である」柏教研からの意見があります学校図書について、2年生巻末をご覧ください。「巻末のアイデアボードで、一人ひとりが考えを表現できる」と調査員から報告があがっています。次に「補充的な学習・発展的な学習」についてです。啓林館について、2年生17ページをご覧ください。「身近な課題につながるように『活用してみよう』を、学習と関連する話題を『部活ラボ』『お仕事ラボ』『お料理ラボ』などとして豊富なコラムで紹介している」と調査員から報告があがっています。大日本図書について、2年生76～78ページをご覧ください。「単元末問題がカラー写真で、基本と読解問題に分かれているのが良い」と柏教研から意見があがっている一方で、学校からは「カラー写真で、コピーして学習がしにくい」との意見もあがっています。次に「幼小中一貫教育の観点」についてです。啓林館について、「小学校理科は啓林館で学習しており、見覚えのある図や振り返り内容で小中間の関連が容易である」と学校からの意見があります。最後に、選定委員会の審議を報告します。啓林館について、「防災教育の観点から『防災・減災ラボ』等にページを割いている」「実験の安全確保についてポイントを示している」「基礎から発展まで扱い、章末や単元末にある問題演習の分量が良い」「小学校とのつながりがあるのが良い」との意見がありました。学校図書について、「巻末の資料のホワイトボードが書きこみながら学べる工夫が良い」との意見がありました。以上で理科についての説明を終わります。

新子教育長： はい。ありがとうございます。ご意見ありましたら。田中委員。

田中委員： まず、報告にもあったんですけども、啓林館の方の防災教育というんですか。

実験の安全確保というところ、しっかりと子どもたちに意識させて学ばせていかなければいけないところだと思いますので、大事な点で、充実しているのはよかったと思います。探究シートもしっかりと探究活動していけるようになっていると思います。さらに、学習のまとめ、力だめし、最後の観点別学習の自己評価もできるようになっているという点で優れていると思います。次に、学図の方ですけども、こちらの方はめあて、Can Doリストという形でめあてを明確にして、内容的にも身の回りにあるものとの関連付けをしているところが興味深いと思います。あと東京書籍ですけども、全体的に落ち着いた形になっていて、さらにDマークをうまく使っていると思います。ただ、教科書のサイズが他と違ってこれがよし悪しがあるのではないかなという思いがあります。以上です。

新子教育長： ありがとうございます。山崎委員。

山崎教育長職務代理： 各者とも巻頭で毎時間の学習のやり方を示しています。1時間の授業については、問題発見、レッツスタートそれから学習課題から始まって、観察実験を行ってふりかえり、活用で終わる理科の学習ができる。各者とも課題解決学習、科学的な思考力を育成するという視点で作られていました。東書ですが、いろんな実験器具の基礎操作が関連する授業の中で指導できるようになっていて器具の使い方、調べ方、スケッチ、レポート、グラフなどの書き方などがわかりやすくまとめられているなと思いました。それから先ほどお話にもありましたが、A4スリム版という見たこともないようなつくりなので、確かに今ちょっと読みにくいかな。扱いにくいかなという感じがしました。それから啓林の方ですが、理科の探究活動に大変力を入れているんだなという感想を持ちました。巻頭に探求の課題のサイクルを示してイメージし、実習で探究活動の例を示しています。また各単元に一つ探究実験をつくり、探究シート、巻末の聞き取りシートで探究シートを生徒に活動させるようにしています。また単元の学習のあとにみんなで探究クラブというものを設定していて、深く考え活動させる教科書になっているかなと思いました。それから単元の最初に導入の2ページ、ねらいと学びの見通しを持つようになっています。終わりは学習のまとめで確認、力だめしで練習問題、広がる世界で発展学習、きちんとまとめられてしっかりと学習のまとめができるなと思いました。それから目次のページにはとても工夫があって観察実験などの技能が、ページ数の記載がありますので目次を見たらわかるという、大変便利です。それから発展的な内容は発展という名前を付けて、これも目次のページに記載がありました。中1とか中2とか高校とかが書いてあるわけで、大変こう目次を見ただけでわかるということは大変便利だなと思いました。それから、学図ですが、章の最初にできるようになりたい目標として、Can Doリストを読ませて意識づけをさせて、章の学習のあとに評価をしてチェックするようになっているということで、これも自己評価ということで大変いいなと思いました。それから単元末の活動ではこれまでの学習を深める活動と、学びを日常に活かしたらというものがありません。学びを日常に活かしたらというのは普通の練習問題ではなくて、記述式の問題を出して考えさせていました。これは学テ対策のようですけども、単元末のまとめや整理として良いと思います。ちょっと学図は、単元末の確認、整理がないので、これは作った方がいいなという感想を持ちま

した。教育出版ですが、巻頭に探求の進め方として、授業の進め方を7ページにわたって大変詳しく進めています。それから単元末には要点と重要語句の整理、基本問題があつて、どちらも大変易しいなという感じがしました。文字が大きくとても見やすいというのも教育出版の特徴だなと思いました。それから大日本ですが、巻頭の4ページ5ページで授業の進め方として、問題の発見、課題、予想、観察、実験、結果、考察。こういう流れを示しています。また、理科室の決まりをチェック形式で入れています。巻末ではもう一度探求の進め方として授業の進め方が示されています。また単元末にも探究活動があります。こういった形で大変探究活動には手厚くなっているなと思いました。ただ教科書が大日本だけB5版ですので、これで内容が全部入るのか、足りなくならないのかという心配を致しました。以上です。

新子教育長： はい、ありがとうございます。近藤委員、お願いします。

近藤委員： 啓林館は黒丸のはてなの課題がよく目だつて、何を学ぶのかははっきりします。写真や図が大きく細部までわかり迫力があります。ページにあるQRコードは、読み込んだらすぐ出てくるのでありがたいです。中身も動画があつたり問題があつたり次々見たくなります。実験実習ページの手順や図がわかりやすいです。東京書籍は細身で幅をとらないので、小さい学校の机で使いやすそうです。計算が必要な水溶液では、例題の解説が丁寧です。レポートの書き方の説明が詳しく分かりやすいです。学校図書は教科書が軽いのありがたいです。1年生では身の回りの物を考える問題発見から入るので身近に感じられます。以上です。

新子教育長： はい。西村委員お願いします。

西村委員： 理科の教科書は全体的に進め方が教科書によって一個一個違うので、生物、地球、化学、電流であつたり生物、化学、電流、地球であつたりというのが、進め方がそれぞれでどれがいいのか。そこまでは判断できなかったのですが、全体的にデジタルQRコードが上手く活用できそうだなとか学習のまとめとかがあつてわかりやすいと感じたのは啓林館でした。全体から部分へうまく流れが作つてあると感じました。先ほどの科学コラムも非常に内容豊かでいろんな興味のある生徒に対応できるのではないかと思います。学図の方もホワイトボード用のペンはみんな持っているのかなとちょっと思つたりもしたんですが、書いて消せるというところが運用ができると思います。ただ、最初の導入がわかりやすいのかもしれませんが、私には長いと感じました。あと文字が少し多めかなと思いました。東書はこのサイズは非常に珍しいんですが、持ってみるとすごい見やすく実験するときもわりと小ぶりに感じるので実は便利なのかなと思つて悪い印象はありませんでした。全体的に考えると啓林館が中学校の理科の教科書として一番いいなと感じました。

新子教育長： ありがとうございます。それぞれご意見をいただきまして、探究に力を入れるというところでは、啓林館であつたり、学校図書も含めて、ということで非常に難しいなと思うんですけども、やっぱり啓林館さんの方は小学校で教科書が支給されておると、そのつながりですね。小中一貫というようなところから考えたら、どちらか判断するのは難しいんですけども、流れ的には啓林館かなと思うんですけどもよろしいですか。

委員全員： はい。

新子教育長： ありがとうございます。

新子教育長： それでは、浅田総括の方から地図について、説明をお願いします。

浅田指導主事： それでは、地図について説明いたします。地図につきましては、東京書籍と帝国書院の2者でございます。まず、「目標、内容の取扱い」についてです。調査員より、東京書籍について『『環境・資源・エネルギー問題』『人口・貧困問題』『紛争・難民問題』『日本の災害・環境問題』『日本の人口』『日本の資源・エネルギー問題』など、現在直面する地球的課題について、豊富な資料に基づいて理解でき、持続可能な社会について考えることができるようになってきている」という報告があがっています。同じく調査員より、帝国書院について「世界の諸地域学習における主題や地球的課題、日本の諸地域学習における地方ごとの考察の仕方について、授業の形式に応じた幅広い学習に対応できるよう、多角的に地図や資料が選定されている。地域の特色が偏らず理解できるよう地図や資料が選定されている」という報告があがっています。次に「人権の取扱い」についてです。大阪府の選定資料には、2者ともに「基本となる地図、文章、写真、挿絵、図、資料等が適切に取り上げられている」と書かれています。例を挙げますと東京書籍7、8ページをご覧ください。SDGsや貧困、難民問題等について取りあげられています。また、帝国書院15～18ページをご覧ください。世界の生活や文化、各国語のあいさつ等について取り上げられています。また、調査員より、帝国書院は「インクルーシブ教育に配慮されており、都道府県名や都道府県庁所在地を手話で話すコーナーが設けられている」「大判の冊子のため地図が見やすい」という報告があがっています。次に「内容の程度」です。調査員より、東京書籍について「地図だけでなく、グラフや写真などの資料も豊富で、教科書での学習を補完できるようになっている」「時間をかけて扱われる地域は、より多くの資料が取り上げられている」という趣旨の報告がありました。また、帝国書院について「国語科で学習する正しい字形となる書体が使われている。学習上重要な地名に大きく太い字で記載され、また、縁取りされていることで、目に留まりやすく読みやすい。学習において頻出する国名や首都名に欧文が併記されており、国際化への対応が見られる」という趣旨の報告がありました。次に組織・配列についてです。調査員より、2者ともに「学習指導要領に合わせて世界は州ごと、日本は地方ごとに地図や資料が構成されている。資料については、地域の特色が偏らずに理解できるように多角的に多くの題材が載せられている」「世界の州、日本の地方はいずれも「一般図」・「資料図」の順で載せられており、それぞれの地域の特色が具体的に読み取れるようになってきている」との報告があがっています。次に「創意工夫」についてです。東京書籍21、22ページをご覧ください。調査員より、「資料のあらゆるところに歴史・公民マークが付けられており、地理的分野も含めた3分野の関連した学習が可能で、3年間の社会科学習全体で使用がしやすくなっている」との報告があがっています。帝国書院について、学校からは「写真の資料が大きい」「大判で見やすい」との意見があります。帝国書院88、108ページをご覧ください。学校からは「防災に注目している」との意見があり、大阪府の選定資料によると、防災・安全を中核とした考察を扱っているページとして、11ページが挙げられています。次に「補足的な学習・発展的な学習」についてです。調査員より、東京書籍について「地理、歴史、公民

の各分野が豊富なので、教科書で学習する内容を補充することが可能で、地理的事象や歴史的事象、現代社会の諸問題について、多面的・多角的に考察することができる」という報告があがっています。帝国書院について、8、20ページをご覧ください。調査員より、「読図をサポートするための地図活用という作業コーナーが設置されており、生徒が自学自習でも主体的に活用できるよう配置されている」との報告があがっています。次に「幼小中一貫教育の観点」についてです。東京書籍4～5ページをご覧ください。調査員より「小学校からの接続がうまくできるように、地図記号の使い方や地図帳の活用方法、テーマ地図やグラフなどの見方をわかりやすく掲載している」という報告があがっています。また、帝国書院4～6ページをご覧ください。「小学校からの接続がスムーズに進むように、鳥瞰表現を使った立体主題図などの親しみやすい表現の地図が載せられている」という報告があがっています。学校より『『地図活用』は、小学校用地図帳の作業コーナーを発展、深化させる形で設けられていて、地図帳の使い方や地理的な見方・考え方が系統的に身につくようになってきている」との意見があります。最後に、選定委員会での意見についてです。帝国書院について「社会科では地図帳に魅力があるかどうかが大変重要。見やすさの観点で帝国書院のほうが見やすい」という意見がでました。また、「小学校でも同様に帝国書院を使っている」「資料集であるとの観点から、統計がみやすく最新のものを使っている」「防災の観点から、帝国は防災マークがあり、項目が多くある」という趣旨の意見がありました。また、「柏原市のことが取り上げられている」という趣旨の意見もありました。以上で地図についての説明を終わります。

新子教育長： 地図でございますが、いかがでしょうか。

近藤委員： 帝国書院、地図中の地名の字がはっきりと見やすいです。世界の各州にある「ながめてよう」の地図では、土地の特徴が分かりやすくのっています。大阪湾周辺の地形では、高井田横穴、松岳山、玉手山の古墳が載っているのがやはり嬉しいです。東京書籍、はじめに20ページ程にわたって「世界全体」があり、現代の諸課題、資源・エネルギー等の内容が充実しています。グラフや写真が大きいので見やすいです。以上です。

新子教育長： ありがとうございます。

田中委員： 説明にもあったかと思いますが、版が大きい分帝国の方が見やすいとはっきりと印象に残るかと思いますが、資料も見やすくなっていると思います。そして、近畿地方の地図を見ても大きさが違う分、柏原市の表記もたくさん載っています。小学校から地図帳として使っている。東書のほうは、どちらかというと教科書的な面もあって、地図帳というよりは資料集といった感じ。やはり地図帳というのは大きくて見やすいのではないかと私は思います。

新子教育長： ありがとうございます。

山崎教育長代理： 大きさは帝国のほうが大判なので見やすいかなという感じがします。それと、先ほどもおっしゃいましたが、東書のいいところは、巻頭に世界の現代社会の課題というものが8ページにわたって詳しく載っています。こういうものを見て子どもたちは、「そうか、こういう課題があるのか」という勉強ができるな、ということを思いました。一方、帝国の方は、これは、小学校の時もそうだったのですが、ちょっと改善されたかな

という感じはするのですが、東書でいうと105ページ、106ページに近畿地方の100万分の1の地図が載っています。帝国の方は、97、98ページに載っているのですが、山地とか平野とかいうところの背景の色が濃いのかな、東書の方は。帝国の方が薄いから、文字が浮き出て見えるものですから、帝国の方が見やすいなという感じがします。それから、近藤委員もおっしゃいましたが、帝国と東書の違いは、なぜか、小学校もそうでしたが、帝国は柏原市にやさしくしてくださっているというか。例えば、50万分の1の地図でいくと、柏原に「ベアリング」という表記があったり、そうか光洋精工かというのがあったり、あるいは先ほどもありましたが、玉手山古墳群、松岳山古墳群、高井田横穴古墳という表記は15万分の1に入ってきます。ということで、帝国は柏原だけでも詳しく載っている、東書は載っていないという違いがあります。それから、近畿地方の取扱いですが、東書は8ページ、帝国は10ページあります。これは、近畿地方を手厚くしてくださっているのかなという感じがします。中身でいけば、先ほどもお話ありましたが、東書の方は、歴史の「歴」とか公民の「公」というマークがついてある。これは非常にわかりやすいです。一方、帝国は「地図活用」というのがおもしろいなと思って見ていました。私も、地図はいつも見ているのですが、これは、自学自習というは、発展的な学習というか、自分でできるなという、そういう感じがしました。「地図活用」というのは、帝国のいいところだなと思いました。こういったことで、柏原にとったら、やはり帝国が柏原に優しかないと、そういう感じでした。以上です。

西村委員： ほとんど意見がかぶるのですが、東書の方は、まずサイズ感が小さいので持ち運びが便利かなと思いました。「歴史の舞台」という項目が、それぞれの地方の後に出てくるので、いろいろな社会全体の関連付けとして工夫はされているなという風に感じました。資料そのものは、やはりこの大判であることと、線自体が細くて、細かい資料の部分は、こちら帝国の方が見やすくなっているなという印象なので、じっくり見ることができるのは帝国なのかなと思いました。地図帳としては帝国の方が優れていると感じました。資料集としては、東書の方も、以前小学校の方を見せていただいたときよりは、すごくよくなっているなと感じました。以上です。

新子教育長： 皆様のご意見をいただきまして、大きく見やすいという意見が帝国書院に多かったとうことと、近畿特に柏原市についての表記が詳しいということで、帝国書院でよろしいでしょうか。

委員全員： はい。

新子教育長： それでは、美術について、湯浅指導主事をお願いします。

湯浅指導主事： それでは、美術について説明いたします。美術につきましては、全部で3者でございます。まず、「目標、内容の取扱い」についてです。大阪府の選定資料では3者とも「現や鑑賞の様々な活動を通して、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、美術での学びを生活や社会に生かそうとすることができる内容が取りあげられている」と書かれています。光村図書1年生の教科書10ページをご覧ください。調査員からは「目標が簡潔で分かりやすい」との報告があり、柏教研や学校からは「一つの題材に対して1～2目標なので、迷いが少なく扱いやすい」との意見があがっています。次に「人権の取扱

い」についてです。日本文教出版、開隆堂について、大阪府の選定資料では「人権尊重の観点からSDGsについて取り扱われている」といった趣旨の内容が書かれています。また光村図書2・3年生の教科書59ページをご覧ください。大阪府の選定資料では「人権尊重の観点から、LGBTQ、いじめ防止についての生徒作品が取り扱われている」といった趣旨の内容が書かれています。次に「内容の程度」です。大阪府の選定資料では、光村図書について「3年間を通して『うつくしい!』をコンセプトにして、生徒の発達段階に応じて学べる内容となっている」と書かれています。日本文教出版、開隆堂については「学年別に生徒の発達段階に応じて学べる内容となっている」といった趣旨の内容が書かれています。次に光村図書2・3年生の教科書48ページをご覧ください。調査員からは「ピカソについての掲載がある。ピカソの作品内容の変化からゲルニカに至るまでこまかく載せられており、作者の生き方にまで触れやすい構成」との報告があがっています。次に「組織・配列」についてです。調査員からは光村図書について「西洋美術の歴史、日本美術の歴史、現代の美術の名画の扱いがコンパクトにまとまっている。内容が豊富」との報告があがっています。次に日本文教出版2・3年生下の教科書48ページをご覧ください。調査員からは「原寸大の作品が多く見やすい」との報告があり、光村図書、開隆堂について「美術1は身近に感じられる内容で、美術23は世界の名画や、発展的で深い内容が盛り込まれている」といった趣旨の報告があがっています。次に「創意工夫」についてです。開隆堂2・3年生の教科書10ページをご覧ください。調査員からは「観点別マークの意味がかかかれている」との報告があがっています。また、学校からは「2・3年の表紙が色鮮やかで、とても目をひく。鑑賞にこのままつかえそうだなと思う」といった趣旨の意見が出ています。次に「補充的な学習・発展的な学習」についてです。光村図書2・3年教科書の76ページをご覧ください。柏教研からは『『発想を広げる』は、美術が苦手な生徒にも、作品作りに役立つと思う。技法、作品作りのプロセスが丁寧に説明されている」といった意見があがっております。他に調査員からは「QRコードの数が多く、ページ内も見やすい。音声ガイドや作業工程の動画など内容が充実している」との報告があがっています。次に「幼小中一貫教育の観点」についてです。日本文教出版1年生の教科書6ページをご覧ください。学校からは「中学校美術の世界へようこそというページを使用し、小学校図工について振り返らせる機会が持てる」との意見が出ています。次に、光村図書1年生の教科書6ページをご覧ください。調査員からは「図画工作と美術の違いがとても分かりやすく、導入に使いたいと感じた」という報告があがっています。最後に、選定委員会の審議について報告します。光村図書について、3者共通して取り上げられている、最後の晚餐、富嶽三十六景、ゲルニカ、レタリングといった教材それぞれに工夫を凝らしたり、詳しい説明があったりすると意見がありました。日本文教出版について、原寸大の扱いが多く、工夫がたくさんあるとの意見がありました。以上で美術についての説明を終わります。

新子教育長： はい。ありがとうございます。ご意見いただけますか。

田中委員： 2・3年上下に分かれているところがあるが、これは何か意味があるのか。

石田指導課長： 教科書会社の特徴です。例年このような形です。

田中委員： はい。すみません。

山崎教育長職務代理： では、よいですか。

新子教育長： はい。お願いいたします。

山崎教育長職務代理： 日文からいきます。今もお話がありましたが日文は3分冊で、学年ごとに1年、2年、3年と使えますので、生徒にはわかりやすいなと思います。2分冊の場合は先生の判断で、2年生はどれを使うか、3年生はどれを使うかといろいろと変わったりすると思います。日文の1年の表紙、フェルメールの少女。これを見ただけで、小学校の図画工作とは随分違うなど、やはり中学校美術だなという発想を子どもたちは持つと思う。めくりますと2、3ページにアニメ「トトロ」の背景画が出てきます。これも美術かと、こういうアニメも美術のひとつなんだということに気づかせてくれて、これは生徒たちには新しい発想だと思います。鑑賞教材、折込みの分ですが、1年には風神雷神図屏風、かきつばた。2・3年の上には浮世絵、下にはピカソのゲルニカ、大変迫力があってきれいだという感じを持ちました。光村ですが、6ページ、7ページに小学校図画工作と中学校美術の違いをわかりやすく説明をしていますので、絵を描くのが苦手でも、美術を好きになれる、そういう感覚を子どもたちは持つと思います。鑑賞も含めて、大変良い書き方だと思います。それから表現中心のページ、実際の授業をする大事なページですが、目標がわかりやすく、また、鑑賞のマークで作家の作品を鑑賞して問いを示し、表現のマークで発想を広げ、構想を練り、制作の過程を示していて、作品作りのプロセスが丁寧に書かれていて、生徒たちに制作の意欲を湧かせることができるなと思いました。光村だけはA4版と、他者より小さいサイズなのですが、鑑賞教材は1年で風神雷神図、それから2年3年で阿修羅、富嶽三十六景とか、ゴッホやピカソがあるのですが、これも小さい版の割には大変な迫力で載っているという気がしました。開隆堂のほうですが、各題材には学習の目標として3つの観点別に目標を作っています。一つめの目標は知識・技能に関すること、二つめの目標は思考力・判断力・表現力に関すること、三つめは学びに向かう力に関することに分けて示されています。学んでどのような力をつけるのかということがわかりますので、美術が得意でない子はこういうところで勉強するのかなと。理屈でなく筆やペンが動く子はよいのですけれども、こういうことも大事ななと思います。それから、開隆堂は美術史が5ページにわたってとても詳しく載っています。1番美術史は詳しくあったかなと思いました。そんなところが感想です。

新子教育長： はい。ありがとうございます。田中委員お願いします。

田中委員： あまり美術は得意ではないので、得意でない者にとって分かりやすかったというところで見せていただきました。光村の説明の仕方がやはり一番分かりやすかったというふうに思います。それとあと、説明にもありましたが、QRコードを使っているということで、実際にそれを見ることによって、生徒たちもよく理解できるのではないかなというふうに思います。レタリングの方法も具体的な説明で理解しやすかったかなと思います。次にわかりやすかったのが開隆堂で、日文は少しわかりにくかったと思います。以上です。

新子教育長： はい。ありがとうございます。近藤委員お願いします。

近藤委員： 日本文教出版、資料や写真が大きいものが多く、迫力がああります。1年生の色

彩のページがきれいでわかりやすかったです。光村図書、表紙、裏表紙の質感、中にも質感の違う紙が使われていて、手触りも表現の一つだと感じさせてくれます。1年生には「みんなの工夫」のページがあり美術が苦手な子にとって参考になります。題材を見るだけで目的がよくわかるようになっていきます。最後の晩餐の消失点を見つけましょうでは、トレーシングペーパーがつけてあるのですぐに取り組める工夫がありました。開隆堂、表紙が2冊とも彫刻作品で、アップの写真は迫力があり、彫り跡など細かいところまでわかります。以上です。

新子教育長： はい。ありがとうございました。西村委員お願いします。

西村委員： はい。日文ですが、先ほど山崎先生がおっしゃったように、ジブリの絵が出てきているので、いろいろなジャンルのものが非常に美しく散りばめられていると思いました。2・3年生の教科書の上、下と進むうちに、下巻のほうで社会と非常に繋がっているような題材が多くなってきていて、例えばこれからの職業であるとか、社会の中での美術ということにも気づかされる良い教科書だなと思いました。開隆堂はすごく表紙が綺麗で、目をひいて、すごいなと思いました。中身をよく見るとこれが一番教科書っぽいなというふうな印象がありまして、理屈で学ぶには良い教科書なのかなと感じました。光村はサイズ感が小さい割には、中身はやはり濃いように感じまして、美術史がうまく散りばめられているように思いました。読み物としても興味深いですし、多角的な視点から日本工芸、デザイン工芸、さらに技法となってから導入して、段々発展していくというところも非常にわかりやすくまとめられていると思いましたし、漫画表現などがあるところも非常に身近に感じました。すごく良いと感じました。

新子教育長： はい。ありがとうございます。ご意見いただきまして、今3者ともに話を聞かせていただいて、難しいと思っております。その点からすれば、選定委員会等、あるいは美術の教師、柏教研、そういったところの述べているところを参考にさせてもらうならば、学年別に生徒の発達段階に応じて学べる内容となっているという光村図書もそうですし、非常に美しいとそういった意見をいただいておりますので、難しいのですが、光村図書と考えますがみなさんいかがでしょうか。

委員全員： はい。

新子教育長： ということで、光村でよろしく願いいたします。

新子教育長： それでは書写について、湯浅指導主事をお願いします。

湯浅指導主事： それでは、書写について説明いたします。書写につきましては、全部で4者でございます。まず、「目標、内容の取扱い」についてです。三省堂の教科書2ページ、14ページをご覧ください。学校からは「目次が非常に見やすく、3年間を見通せるものになっている」との意見が出ています。また、調査員からは『基礎編』と『本編』に分けられている。『本編』の最初のページに学年別の内容が分かりやすく示されており、3学年見通しをもって進めることができる」との報告もあがっています。次に「人権の取扱い」についてです。三省堂の教科書について学校から「1ページの情報量が多すぎないので、見やすい」との意見があがっています。また、教育出版の教科書20ページ、52ページをご覧ください。調査員からは『楷書の字形・筆順』や『行書の特徴』のページでは、漢

字の特徴について色分けや記号・形を使うなど、学習の手がかりとなるような工夫が随所にあり、分かりやすい」との報告があがっています。大阪府の選定資料では全者「すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている」と書かれています。次に「内容の程度」です。東京書籍の教科書14ページをご覧ください。調査員からは「『見つけよう』の内容には、あえて整っていない字を示してどこを直せばよいか問うものなどがあり、生徒の気づきにつながるものが多い」との報告があがっています。次に「組織・配列」についてです。教育出版の教科書28ページをご覧ください。大阪府の選定資料では「『目標』『考えよう』で書き方のポイントを学び、『生かそう』『振り返ろう』で、学習を振り返り、学んだことを日常生活に生かす構成となっている。また『考えよう』で学ぶポイントを記述する欄が示されている」と書かれています。次に光村図書の教科書38ページをご覧ください。調査員からは「各単元の初めに『やってみよう』というページが設けられており、導入部分として生徒の興味を引くことができる」との報告があがっています。また、学校からも「内容や配列がコンパクトにまとめられており、わかりやすくなっていた」という趣旨の意見がでてきます。次に「創意工夫」についてです。三省堂の教科書6ページをご覧ください。調査員からは「『自分の文字を書き残そう』というページが巻頭にあり、1年生から3年生にかけてどのように自分の字が変化したのかが分かるようになっている」との報告があがっています。次に教育出版の教科書108ページをご覧ください。調査員からは「巻末に『書写テスト』がついており、3年間の学びを確認することができる」との報告があがっています。次に「補充的な学習・発展的な学習」についてです。三省堂の教科書うしろの折りたたみの部分にある125ページをご覧ください。調査員からは「各項目ごとに示されていた『書き方を学ぼう』のコーナーが巻末にまとめられており、復習がしやすくなっている」との報告があり、学校からも「多数の手本や資料など、充実した内容になっている」といった趣旨の意見が出ています。次に「幼小中一貫教育の観点」についてです。東京書籍、光村図書の教科書について、調査員からは「学習に入る前に、小学校の時に学習した内容について復習することができる」といった趣旨の報告があがっています。最後に、選定委員会の審議について報告します。三省堂について、見本が大きく使いやすい、色分けの見やすさ、国語教材とのリンクがあるとの意見がありました。また、硬筆の練習量が多いのは三省堂と光村図書であるとの意見がありました。教育出版についてTPOに合わせた文字、役割に合わせた文字を美しく書くことを大切にしており、学習意欲をかきたてる構成になっているとの意見がありました。以上で書写についての説明を終わります。

新子教育長： はい。ありがとうございます。いかがでしょうか。

山崎教育長職務代理： 東書ですが、各学年の最初のページにその学年で学ぶことが書かれていわかりやすいなと思いました。各單元には「目標」「みつけよう」「確かめよう」「活かそう」「振り返って話そう」が書かれていて、どのように学ぶかがわかるようになっている、課題解決型の学習になっているなということ。「書写の鍵」というのがあるのですが、これは書く時のポイントが示されていてわかりやすいなと思いました。三省堂ですが、冒頭の「基礎編」に毛筆の姿勢や持ち方の学習があります。それだけでなく、硬筆の姿勢や持

ち方の学習もあります。小学校で硬筆の姿勢なんかは1年生からきちんとやって、鉛筆の持ち方もやるのですが、中学生になっても嫌いな子は鉛筆の持ち方からおかしいわけで、こういうこともやっぱり中1の最初からきちんと鉛筆の持ち方から姿勢もやっておくべきだなと思って、これはなかなかいいなと思いました。三省堂は小版ですが、東書や教出は大きいAB版ですけれども、十分内容はわかるなという感じがしました。教科書に書き込んだり、なぞったりする箇所がありました。大変学習しやすくなっているなということ。それから各単元に「目標」「書き方のポイントをつかむ」「そのポイントがどこに使われているか」「ポイントを意識して書く」「振り返る」などというのがありまして、要点がとてもわかりやすくなっているなという感じです。教育出版ですが、お手本には書き順が示されていて大変いいと思いました。やはり字が上手くなるためには筆順というのがとても大切で、上手に書ける子はそれでいいわけですが、やはり苦手な子にはこういうのはきちんとしてあげるのがいいなと思いました。教科書に書き込んだりなぞったりできるところが多く、学習しやすいということ。それから、毛筆の筆遣いについて、朱書、赤で書かれていてとてもわかりやすくなっていると思いました。光村ですが「書写ブック」硬筆の練習帳が別冊でついています。書き込みの練習ができるので、これは光村だけですが、大変いいなと思いました。各単元に「目標」「考えよう」「確かめよう」と「学習を振り返る」が書かれていて、どのように学ぶかがわかるようになっています。それから、教科書のどこから1年で、どこから2年で、どこから3年というのが少しわかりにくいようになっています。もっとはっきりさせて、2年ではこれを習うんだという意欲を持たせたいなと思いました。そういうことで、これは工夫されたらどうかなという感じです。以上です。

田中委員： 東書ですけれども山崎先生の言われたように、單元ごとに最初に課題があってわかりやすい進め方になっているかと思います。次に三省堂のほうですけれども、紙の質からしてここに書き込むのに一番書き込みやすいのかなという感じがしました。漢字、言葉、文章のつながりがわかりやすく説明されているかなと思います。教育出版のほうは、解説が少なかったかなというような感じがします。光村のほうは、いろいろなジャンルの課題があって、すごくいいなと思って、全体的によく整備されているなと思いました。以上です。

近藤委員： 教育出版は、学年ごとにページ右側の色分けがされています。他の教科や学校行事との関連ある教材が多くあります。三省堂、字形の整え方や気をつけるポイントがわかりやすく親切です。行書の硬筆のお手本は、鉛筆書き風で、筆圧の強弱が感じられるよう工夫されています。書き込みのページはたくさん練習できるようになっています。光村図書、別冊で書写ブックがついています。毛筆ページにあるQRコードは動画でお手本が見られるので筆運びがよくわかります。東京書籍、ノートの書き方や学校行事にあわせたページがあります。書写活用ブックが詳しく役立ちそうです。

西村委員： 東京書籍ですが、内容が非常に多くよく学習できると思いますが、少し見るところが多すぎて、どこを見たらいいのか悩むこともあるのかなという印象がありました。三省堂ですが、こちらは比較して、すっきりしていて全体的にバランスがとれていると思いますし「資料編」「日常の書式」などが非常にみやすく、卒業後も持っているとう便利かな

という教科書だと思いました。そういう点では光村図書は学年の区切りがないので、学びにくいかもしれませんが、書写の本としてはもしかしたらこれがスタンダードなのかもしれません。教育出版がお手本が右にありました。生活に生かせる内容も多いとは思いました。それぞれいいところも多いかなとは思いますが、三省堂の教科書はバランスがいいかなと感じました。

新子教育長： はい。ありがとうございます。先生方のご意見、あるいは選定委員会等の中で、三省堂につきましては一番肯定的な意見が多かったのですけれども、3年間を見通せるものになっているという部分であったり、1ページの情報量があまり多すぎない、かつ見やすいとといったところや総合的なところから三省堂ということによろしいでしょうか。

委員全員： はい。

新子教育長： では、三省堂でいきたいと思います。

新子教育長： それでは、時間の方なんですけれども、もう4時30分になるということで、この後も続きがございますので、ここで議案第34号令和3年度柏原市立中学校使用教科用図書の採択について、審議を一旦終了いたしまして、臨時会を開催するというところでよろしいでしょうか。

委員全員： はい。

新子教育長： それでは、臨時会の日程につきましては、のちほど事務局と相談させていただきます。ここで暫時休憩いたします。

| | |
|----|---------|
| 休憩 | 午後4時25分 |
| 再開 | 午後4時33分 |

新子教育長： 再開いたします。引き続き、議案第36号について、教育総務課寺川次長より説明をお願いします。

寺川次長： 4ページをお開き願います。議案第36号柏原市教育委員会表彰審査委員会委員の委嘱・任命についてでございます。柏原市教育委員会表彰審査委員会規則第2条第2項の規定によりまして、委嘱・任命するものでございます。5ページをお開き願います。令和2年度教育委員会表彰審査委員会委員委嘱・任命予定者名簿でございます。名簿にあります5名の方をお願いしたいと考えております。今回社会教育関係団体、並びに学校園のご代表が昨年度から変更となっております。委嘱期間といたしまして、委員会の初回開催日から表彰当日の令和2年11月3日までとなっております。説明は、以上です。

新子教育長： 今、説明をしてもらいました議案につきまして、ご質問等ございませんでしょうか。

委員全員： なし。

新子教育長： 議案第36号について、原案どおり承認してよろしいですか。

委員全員： 異議なし。

新子教育長： 議案第36号柏原市教育委員会表彰審査委員会委員の委嘱・任命については、原案どおり承認することにいたします。続きまして、最後になります。議案第37号について、スポーツ推進課篠宮次長より説明をお願いします。

篠宮次長： 続きまして、私からは提出案件のうち議案第37号につきましてご説明申し上げます。議案書の6ページをお開き願います。堅下北スポーツ広場は、平成31年4月1日にオープンをいたしまして、この間、市直営にて施設の管理運営を行ってまいりましたが、民間事業者等の能力や経営ノウハウを活用しつつ、市民サービスの向上を図るため、令和3年度からは、指定管理者制度を導入することといたしました。そのための条例改正案は、5月の教育委員会会議でご承認をいただきました後、6月の市議会第2回定例会にて、可決いただきました。さて今回、教育委員会会議に上程させて頂きました議案第37号は、市議会にて可決しました条例改正を受けまして、その施行規則となります、柏原市立堅下北スポーツ広場条例施行規則の一部を改正するものでございます。議案書の9～11ページをご覧ください。これは規則改正の新旧対照表ですが、左が現行の規則、右が改正案でございます。主な改正の内容ですが、条文中の「教育委員会」や「市長」の名称を「指定管理者」に改め、「使用」という用語を「利用」に改めるなど、字句の修正と、条例改正による条ずれに伴う整備を行っております。そのため、内容的には新たな変更等はありません。施行期日につきましては、条例改正と同じく令和3年4月1日からとなっております。以上、簡単ではございますが、主な改正の内容でございます。ご審議の上、ご承認賜りますようよろしくお願い申し上げます。

新子教育長： 説明をいただきました。ご質問等ございましたら、お願いします。

委員全員： なし。

新子教育長： ないようでございますので、議案第37号について、原案どおり承認してよろしいですか。

委員全員： 異議なし。

新子教育長： それでは、議案第37号柏原市立堅下北スポーツ広場条例施行規則の一部改正については、原案どおり承認することにいたします。

以上で、第7回定例教育委員会会議を閉会いたします。

閉会 午後4時40分

本教育委員会会議の議事の経過に相違ないことを証するためにここに署名する。

令和 年 月 日

柏原市教育委員